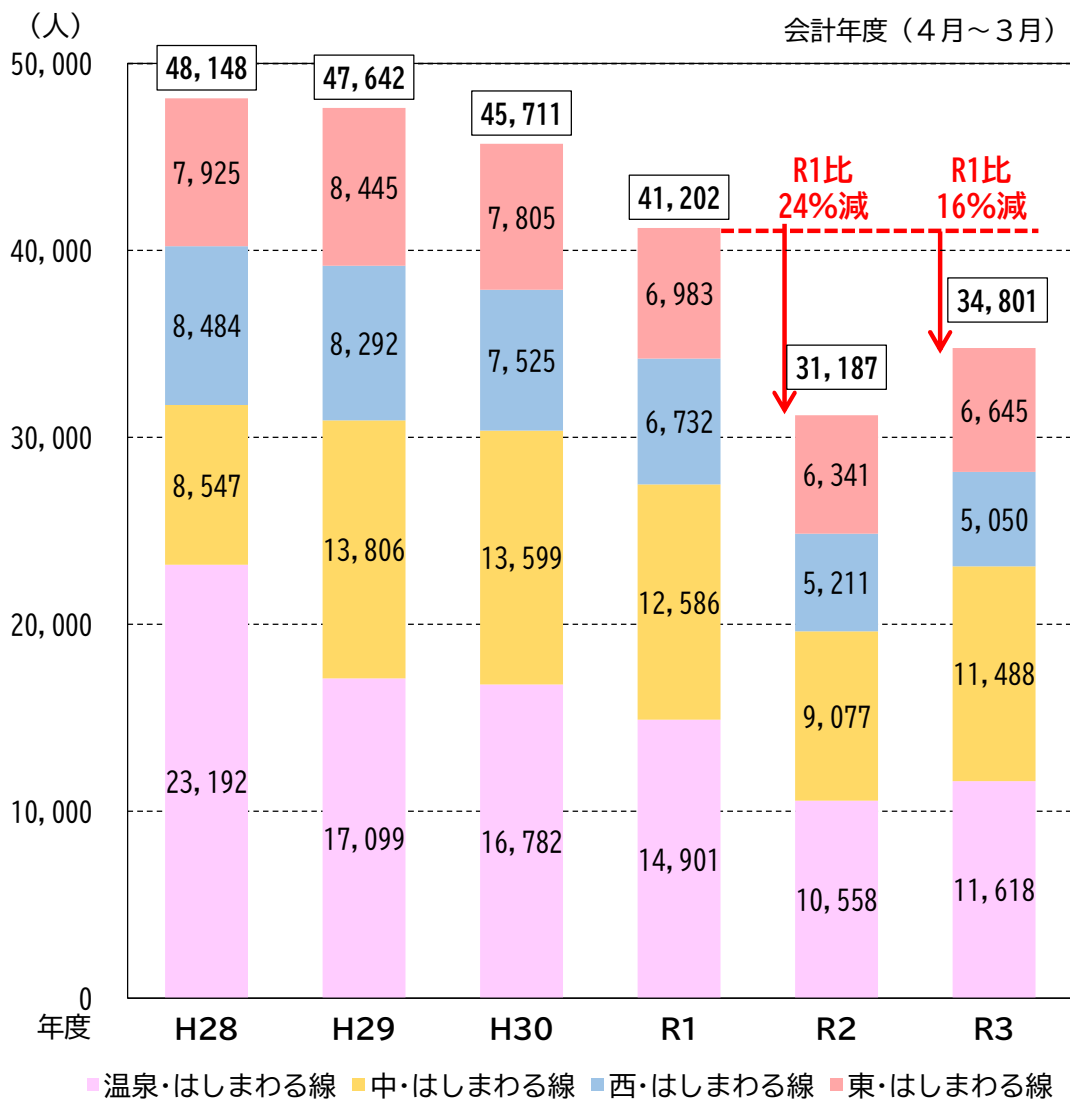


報第1号 コミュニティバスの利用状況

年間利用者数の推移

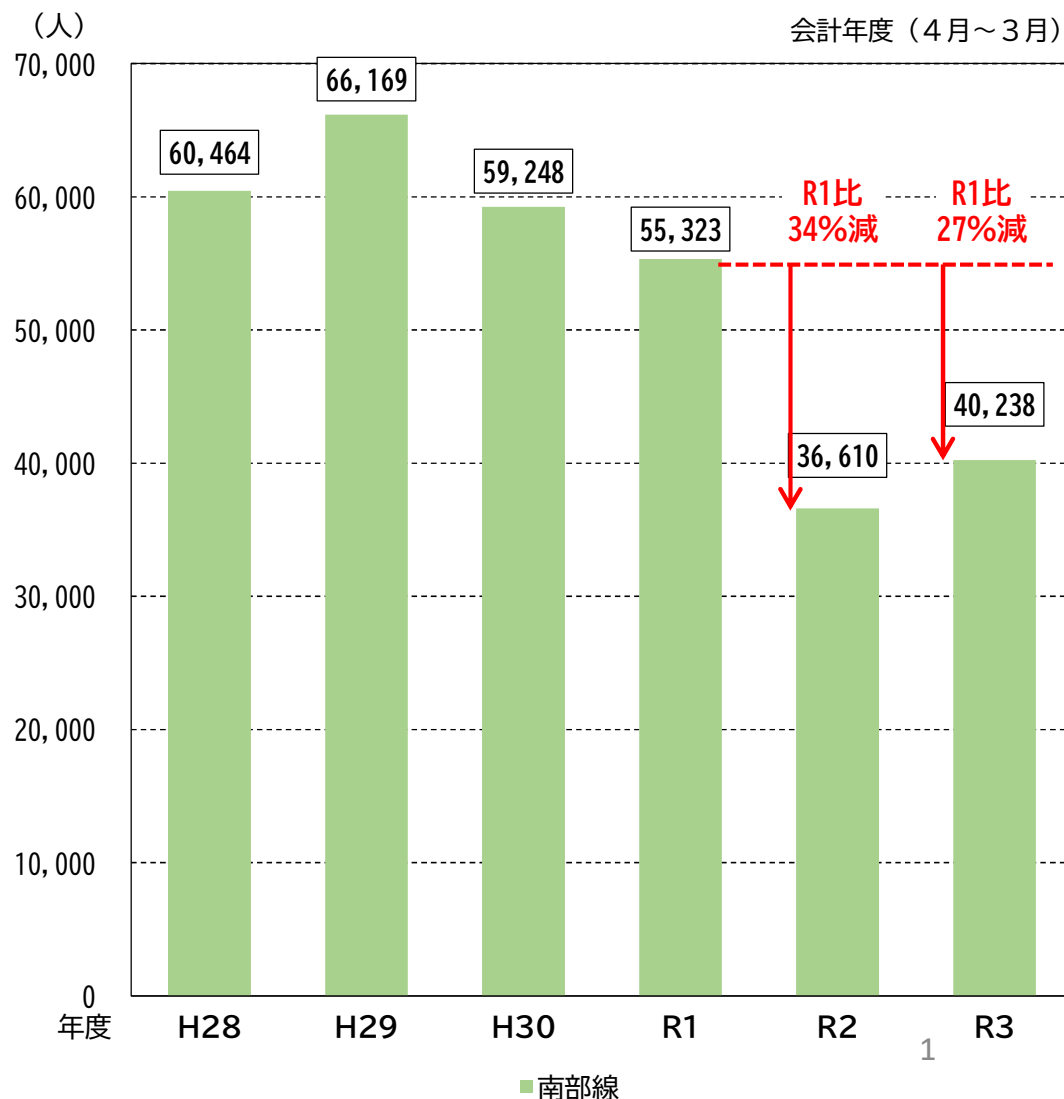
はしまわる線

- 平成28年度～令和元年度の推移をみると、全体として減少傾向にある。
- コロナ禍の影響を令和元年度比で見ると、令和2年度の利用者数は24%減、令和3年度は16%減となっている。

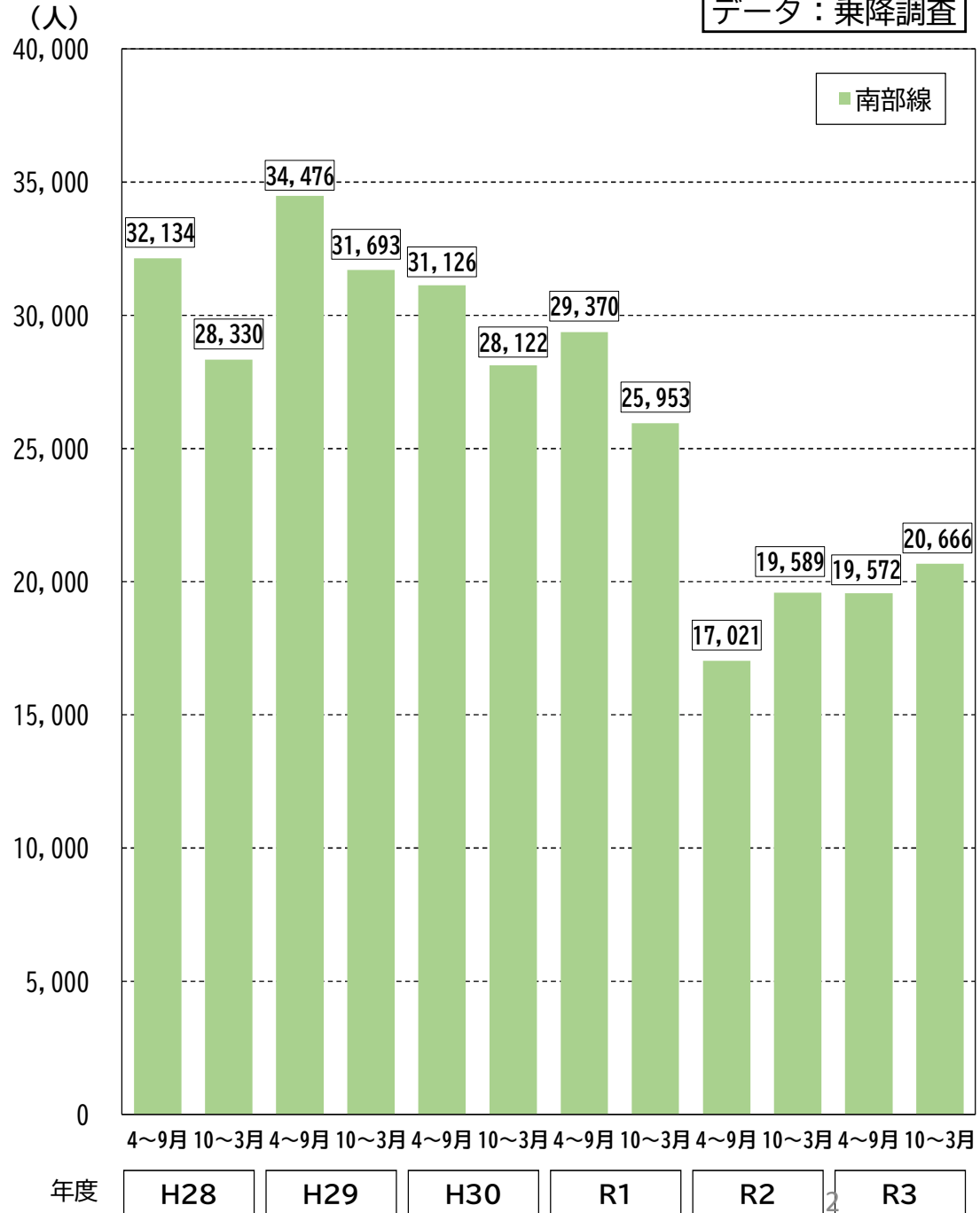
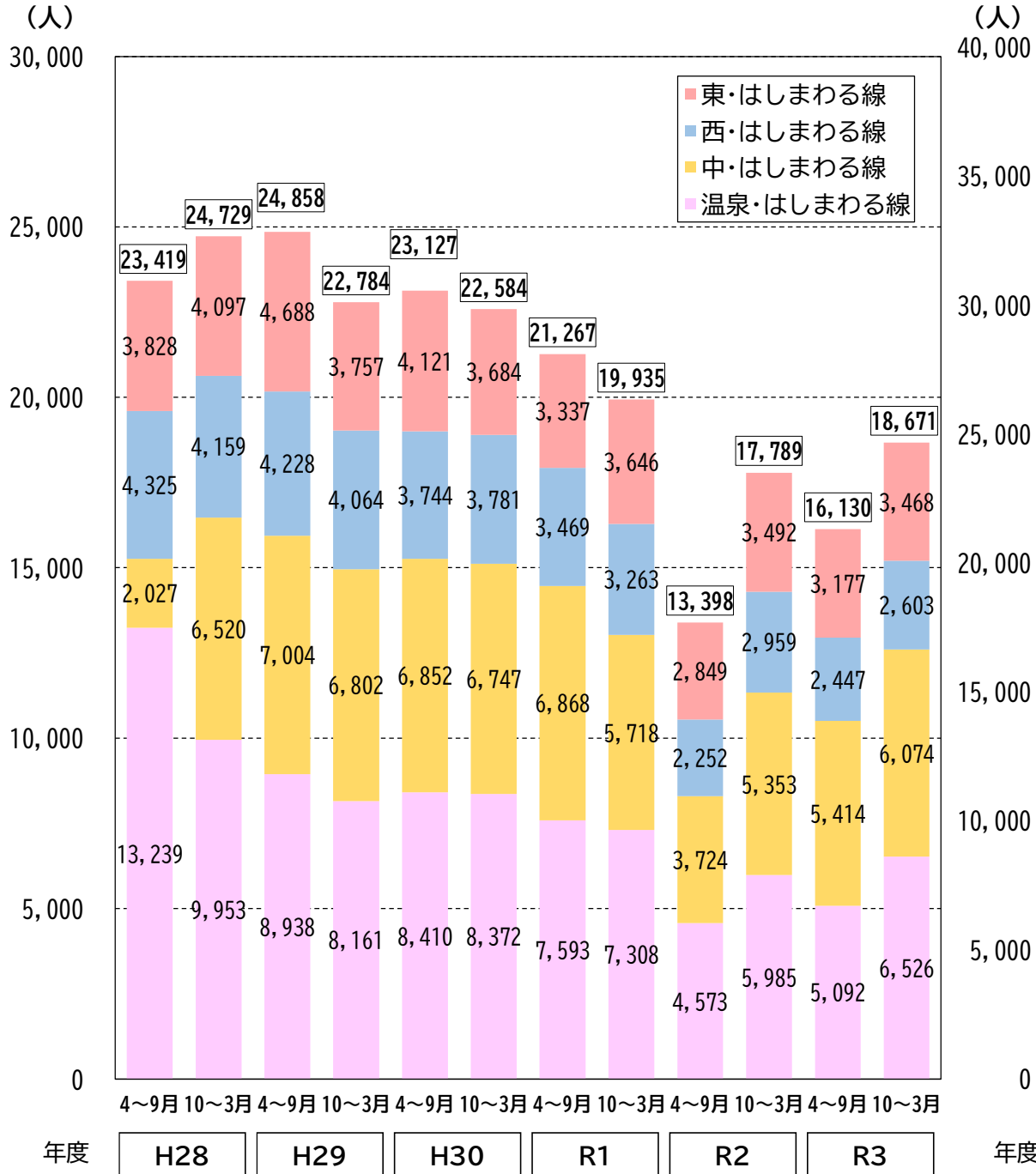


南部線

- 平成28年度～令和元年度の推移をみると、平成29年度をピークに、その後減少傾向となっている。
- コロナ禍の影響を令和元年度比で見ると、令和2年度の利用者数は34%減、令和3年度は27%減となっている。

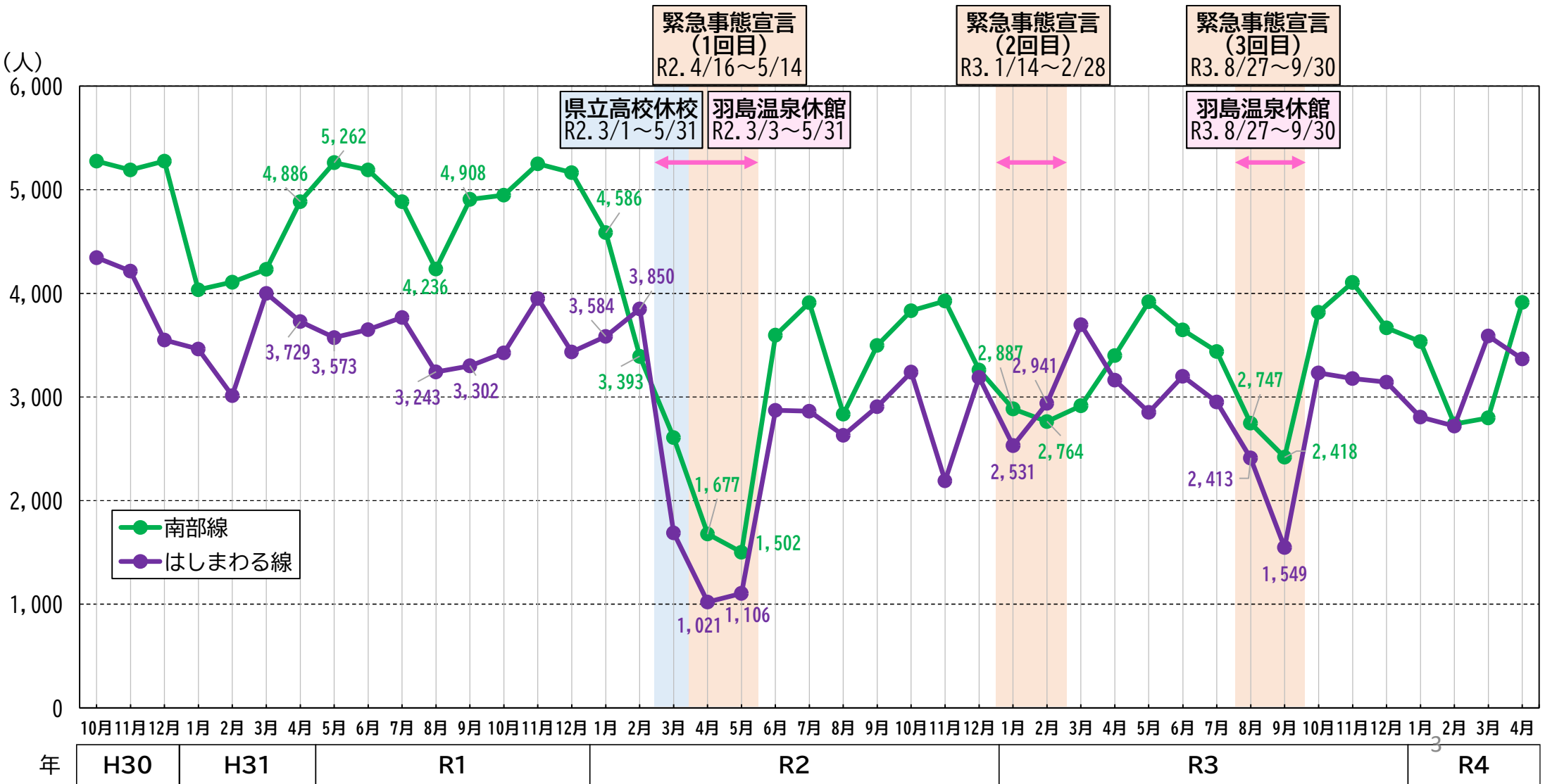


(参考) 半期ごとの利用者数の推移



月間利用者数の推移

- 岐阜県では、令和2年度から令和3年度にかけて、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う「緊急事態宣言」が計3回発出された。
 - 1回目の緊急事態宣言（令和2年4～5月）の期間は、はしまわる線は令和元年度は3,500人/月程度で推移していたが、羽島温泉の休館や外出自粛等の影響で1,000人/月程度まで減少した。南部線は、県立高校の休校の影響で大きく減少した。
 - 2回目の緊急事態宣言（令和3年1～2月）の期間は、羽島温泉の休館はなく、利用者数の大きな減少は見られなかった。
 - 3回目の緊急事態宣言（令和3年8～9月）の期間では、羽島温泉が休館となり、1,500人/月程度まで再び大きく減少した。
- 利用者数の減少は、羽島温泉の休館による影響が大きいと考えられる。



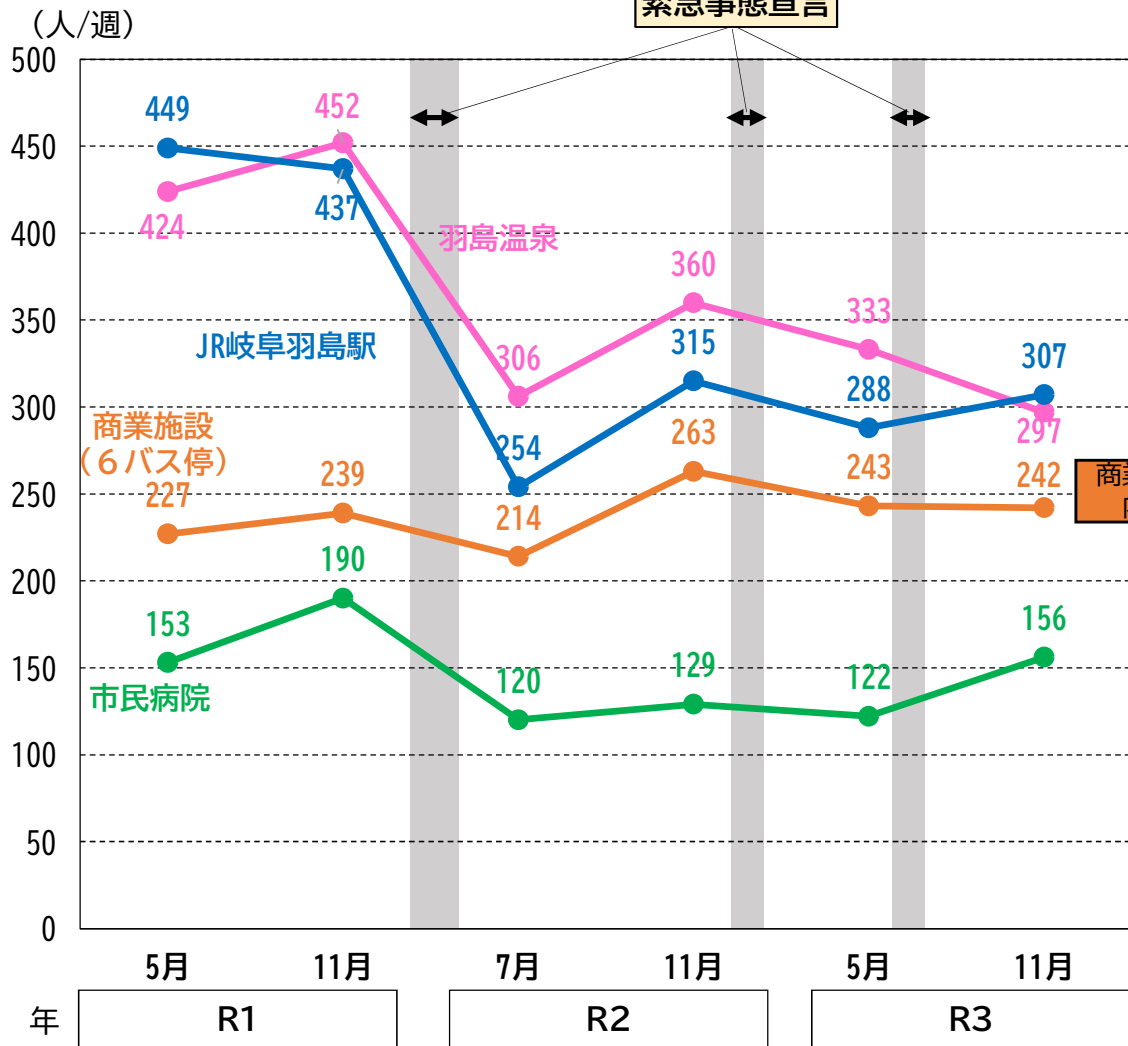
はしまわる線 バス停別乗降者数の推移

データ：乗降調査

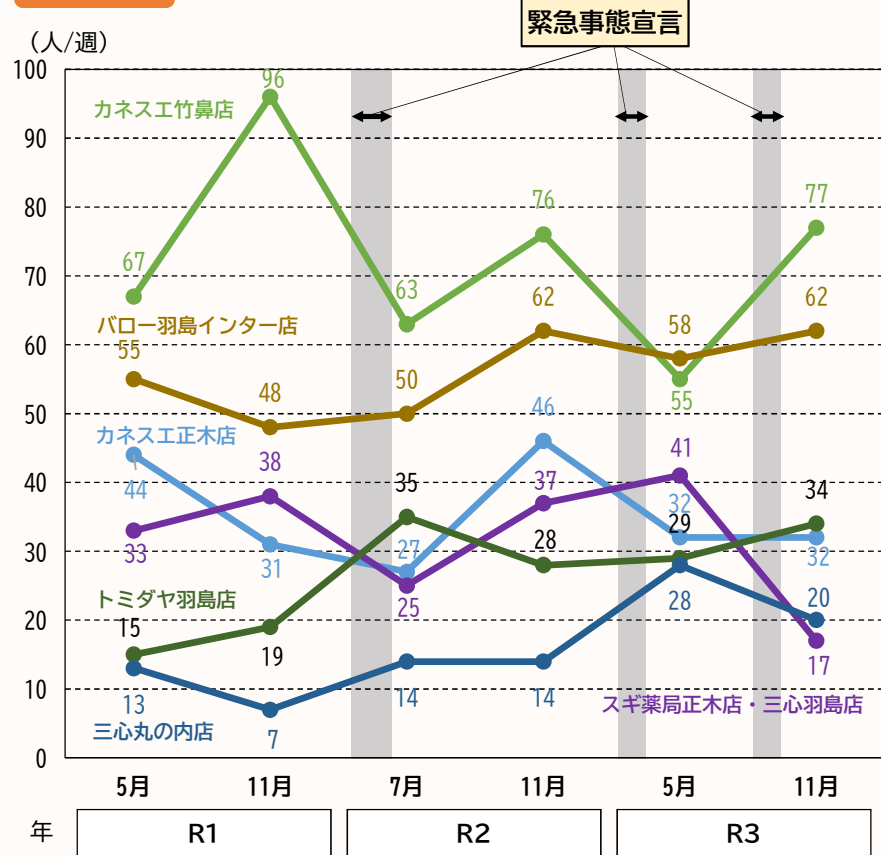
はしまわる線のコロナ禍の利用傾向を把握するため、バス停別乗降者数の推移を集計した。

- 羽島温泉の乗降者は、コロナ禍の影響による減少幅が大きく、令和2年7月に令和元年度と比べ3割程度減少し、その後あまり回復していない。
- 商業施設の乗降者は、令和2年度以降大きな減少は見られず、概ね横ばいで推移している。
- 市民病院の乗降者は、令和2年7月から令和3年5月まではやや減少気味であったが、令和3年11月には令和元年5月の水準まで回復した。

主な施設



商業施設



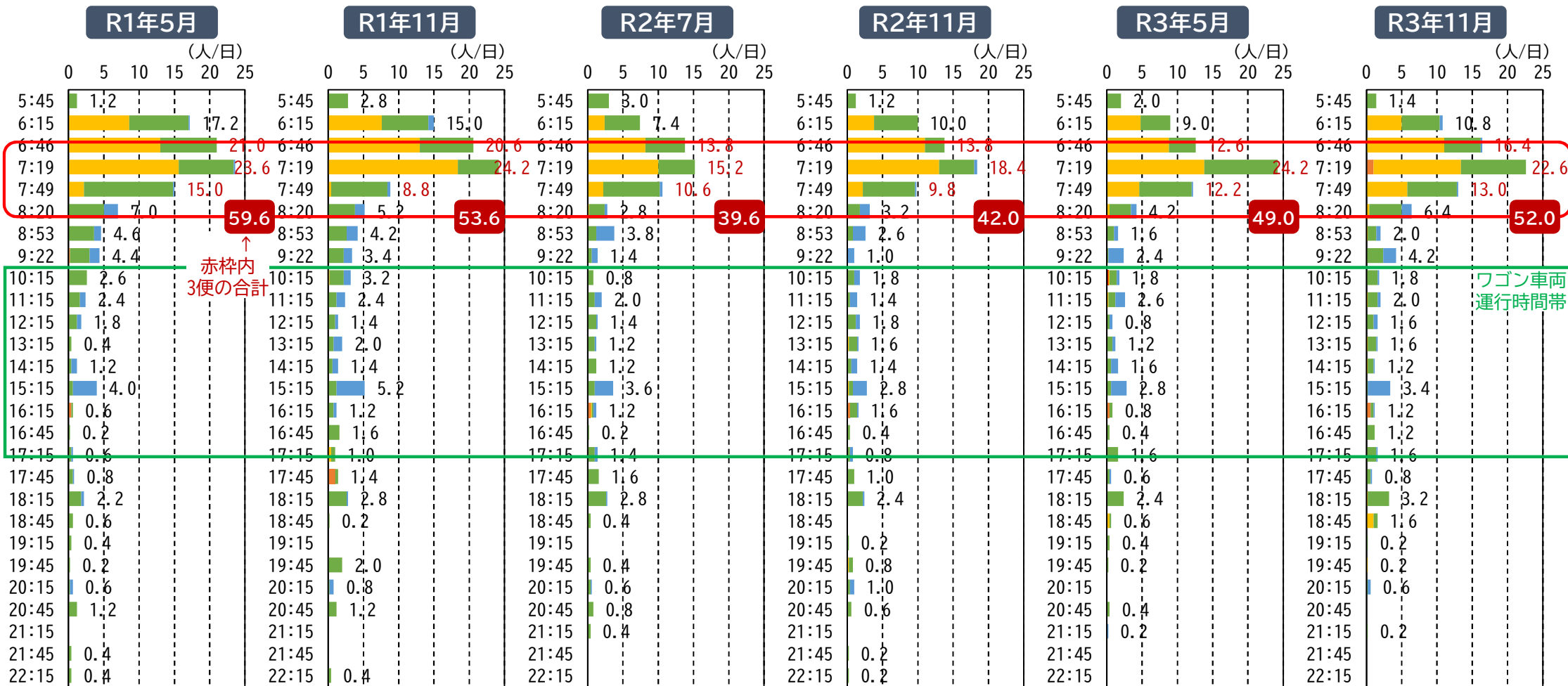
南部線 便別利用者数の比較

南部線の朝夕の通勤・通学利用の変動向を把握するため、便別利用者数の推移を集計した。

データ：乗降調査

- 平日は通勤・通学利用が多く、朝は羽島市役所前駅行き、夕方から夜間は大須行きの利用者が多くなっている。
- 朝の「羽島市役所前駅行き」(6:46、7:19、7:49発)の便は、令和元年度は50人以上利用していたが、令和2年7月には約40人まで減少し、その後令和3年度は再び50人程度まで回復している。

平日 羽島市役所前駅行き



小学生未満 小中学生 高校生 一般 高齢者

・ 夕方の「大須行き」(16:20~18:50発)の便は、令和元年度は50人程度利用していたが、令和2年7月以降は30人台で推移しており、令和3年11月時点では令和元年に比べ、8割程度までしか回復していない。

平日 大須行き

